

学生コーディネーター企画

「第14回みやこ祭」 ごゆるりボラセン

2018/11/01~02

「第14回 みやこ祭」の開催期間中である11月1日（木）、2日（金）に、来校者が気軽に立ち寄れる休憩スペースとしてボランティアセンターを開放し、首都大OBの方や近隣地域の方、高校生、首都大生等、2日間で12名の方にお越しいただきました。

・準備

企画・準備の段階では、魅力あふれるボランティアセンターの取組を紹介するためにはどうしたらよいかについて、話し合いました。自分たちが日頃行っている活動やボランティアセンターの取組をより多くの方に知っていただきたいという思いから、今年度の活動写真を使ったスライドショーの作成や室内のホワイトボードの装飾を行いました。

・当日

「ごゆるりボラセン」としてボランティアセンターを開放している間は、学生コーディネーターが来室した方のお話を聞いたり、自分たちが日頃行っている

活動を紹介したりする等、名前の通りごゆるりとした時間が流れた2日間でした。関心のある方が写真等の資料を見るだけでなく、学生コーディネーターと直接お話しすることができ、来て見て話して楽しむ



今年度の活動写真を貼りホワイトボードを装飾して展示しました！



地域の方々と交流している様子

＜学生コーディネーターの感想①＞

来室した方と話しているうちに、自分がプログラムでも関わっている「みなみおおさまカフェ」を気になっていたということが分かり、紹介をすることができました。みやこ祭といったような、いつもと違う機会だとできることもニーズも変わってくるのだと気づくことができました。後日談ですがその方とはみなみおおさまカフェで再会することができ、とても嬉しかったです。

みやこ祭のような機会を通して、さらに地域とボランティアセンターのつながりを広げていくことができればと思います。

＜学生コーディネーターの感想②＞

私が在室していた2時間での来室者は3人でした。1人は、以前、首都大のボランティア活動に参加しており、その団体を探しに来た方でした。残りの2人の方はどちらかというボランティア活動に興味があるというわけではなく、お話しすることを楽しみに来た方という印象でした。1人目の方には、団体の紹介ができ、力になって、来てもらった甲斐があったと感じました。他の2人の方に対しては、うまくボランティア活動についての説明ができなかったという反省があります。

様々な方のお話しを通して、世の中には色々な人がいるということを実感しました。そして、多くの方に来ていただき、「ごゆるりボラセン」が気軽にお話しをする場所として機能していて、良かったなと思いました。